

令和8年度

奈井江町教育委員会 事務事業の点検 及び 評価報告書

(令和7年度事業対象)

令和8年7月

奈井江町教育委員会

はじめに

昨年度も、「令和7年度 奈井江町 教育行政執行方針」に掲げた3つの重点目標に基づき、学校運営や生涯学習事業を推進してきました。

教育行政全般に亘るものとして、奈井江町教育ビジョンの後期4年間の見直しを行うため、保護者や地域住民、教育関係者に留まらない各界各層の町民27名で構成する検討委員会を設置し、現行ビジョンの検証と後期ビジョンの改正点について5回に渡る議論を経て、修正案を答申をして頂きました。教育委員会では、その答申を参考に議論を行い、教育ビジョンに掲げる基本理念や重点目標は変えないものの目標を達成するための施策や実施事業などについて改訂を行いました。

学校運営では、奈井江小学校に新たに通級指導教室を開設して、勉強を苦手としている子どもたちを対象とする少人数授業を行い、個別最適な学びによる基礎・基本の定着を図ったほか、小学4年生から中学3年生までを対象に包括的性教育授業を実施し、性教育に留まらない自分自身の心と身体を理解し、他者を尊重することの大切さを学ぶ機会を創りました。また、公設塾「ななかま」では、対象を中学生まで拡大し、放課後はもちろん、部活動終了後の自学自習をサポートする体制を構築しました。

スポーツ関係では、体育館のトレーニングルームなどにエアコンを整備し、施設の環境改善を図りました。また、部活動の地域移行を考える検討委員会を設置し、15名の委員による5回の会議を経て教育委員会に答申があり、基本的な考え方や段階的に進めていく計画案を策定しました。

生涯学習関係では、著名なアーティストを招聘する自主事業や地域おこし協力隊による様々な音楽イベントを開催し、町外からの交流人口の増加にも寄与しました。

これら令和7年度に教育委員会が取り組んできた主要な施策や事業について過日、外部評価委員による点検と評価を行っていただき、本書にまとめました。

令和8年7月

奈井江町教育委員会

目 次

1	学校教育を充実します.....	1
2	豊かな心と健やかな体の育成を推進します.....	3
3	快適な学習環境の整備を推進します.....	5
4	多様な教育機会の支援を推進します.....	6
5	子どもの健全な育成を推進します.....	8
6	生涯学習活動を推進します.....	10
7	楽しく参加できる生涯スポーツを推進します.....	12
8	個性豊かな芸術文化を推進します.....	13

○外部評価会議 開催日

令和8年7月9日（木）

○外部評価委員

新田一寛、井澤一美、松本陽子

令和 7 年度 教育委員会 事務事業の点検及び評価

1 学校教育を充実します

- ① 子どもたちの主体性を育んでいく授業を推進していくため、タブレット端末に導入する AI 型の学習教材を活用し、一人ひとりの習熟度に合わせた最適な問題、苦手科目の解消や得意科目の伸展を図っていきます。
- ② 奈井江小学校に新たに通級指導教室を開設して、勉強を苦手としている子どもたちを教室から取り出し、少人数での授業を行い、学習の定着を図っていきます。
- ③ 公設塾「ななかま」は、毎日の学習習慣を見つけさせ基礎学力の定着、苦手意識克服を目的に自学自習のほか、特別授業や体験活動を月 1 回程度行います。
- ④ 町費による特別な支援を必要とする児童生徒が学ぶための支援員の配置や 2 名の英語指導助手を 1 名ずつ小中学校に配置し、かつ認定こども園や奈井江商業高校にも派遣するなど、安心できめ細かな学習環境を継続します。

①	実施状況	・ 小学校（178 名）中学校（89 名）ともに様々な授業や行事、生徒会等で、タブレット活用が行われている中、授業はもとより宿題、家庭学習において AI 型の学習教材を活用した。
	自己評価	・ 児童生徒 1 人ひとりの習熟度に合わせた最適な問題が提示され、達成感を味わいやすく、苦手科目の解消や得意科目の伸展を自分のペースで効果的に学習することができた。 ・ 一方で読み書きなどノートに書き写すアナログな授業と、デジタル双方の良さをかけ合わせ、効果的な学習に繋がっている。 ・ 教職員も児童生徒への問題提供等、効率的に学習を進めることで業務負担が軽減され、学校現場の働き方改革にも貢献した。
②	実施状況	・ 小学 3 年～6 年生 18 名の児童が通常学級に在籍しながら、個別または少人数で週 2 ～ 8 時間程度、個々の特性や困難に応じた計画に基づいた指導を行った。
	自己評価	・ 読み書きや計算、理解力、集中力の持続が困難な児童に対し、子ども一人ひとりに合わせた指導することで、学習や生活上の困難を支援することができた。

③	実施 状況	・小学3～6年生 計42名（通塾率34%）、中学生 計38名（通塾率42%）が通塾し、学習課題の共有や運営など、小中学校と連携しながら、自学自習の支援をはじめ、小学部では、まちの先生による特別授業や体験活動を月1回程度実施。中学部では大学生とのワークショップを4日間実施しました。長期休業期間には、「子ども朝活推進事業」と連携し、学習活動やプログラミング体験、辞書引き学習など、様々な体験活動を実施した。
	自己 評価	・通塾する児童たちは、宿題やドリル等、当日の学習内容を自ら考え、自学自習に取り組んでおり、また「まちの先生」による特別授業をはじめ、「子ども朝活推進事業」と連携した学習活動や体験活動により、知識やスキルを習得するだけでなく、失敗を恐れずにチャレンジしたり、困難を乗り越える力、知りたいという気持ちの醸成を養い、子どもたちの学びに対する意欲が向上している。
④	実施 状況	・特別な支援を必要とする児童生徒や保護者に、安心した学習環境となるよう小学校に3名、中学校に2名の支援員を配置。 ・小中学校に英語指導助手1名ずつを配置し、授業サポートや発音・コミュニケーションなどを養う活動のほか、認定こども園では、3～5歳児を対象（月3～5回）に、発音のルールを学ぶフォニックス学習を用いて英語に親しむ活動、奈良江商業高校への派遣（週2回4コマ）では、授業サポートや英検対策などの支援をした。
	自己 評価	・特別支援教育支援員配置により、生活面や学習面などの支援を行い、児童生徒や保護者が安心できる学校生活に繋がっている。 ・英語指導助手の活動により、こども園から高校までの町内教育機関で英語活動が充実し、英語への興味やコミュニケーション能力が養われている。

（外部評価会議の意見）

- ・ICT教育はもっと進化していくと思うが、文字を書く筆圧などリアルな体感は今後に影響するものであり、今のデジタルとアナログの良いところ取りの形態を評価するし、継続するべきである。
- ・英語に慣れ親しむ環境や関わりは引き続き大切にしていってほしい、今後も英語指導助手を最大限に活用した体制を維持してください。

2 豊かな心と健やかな体の育成を推進します

- ① 自分たちが住むまちの豊かな自然や歴史、産業、暮らし、そして岡山県やフィンランド共和国といった友好都市について学び“奈井江を識り、世界を識る、を深めていきます。
- ② 自己の生き方を考え、自立した人間としての成長を涵養するため、学校活動全体を通じた道徳教育を推進します。また、子どもたちへの教育相談などを実施し、悩みごとの解消や いじめの早期発見、早期対応に努めると共にスクールカウンセラーを配置し、子どもたちの心の成長を支援します。
- ③多様性の時代にあって自他の身体や権利を守るため、“他人を知り、違いを認め、切磋琢磨する、子どもたちを育てていきます。

①	実施 状況	・小学校では、農作物を育てながら命の大切さを学ぶ体験学習のほか、町内企業訪問や友好都市岡山県高梁市の成羽小学校と交流事業活動等により、地域を学ぶ活動を実施。 中学校と高校でも、インターンシップや成羽中学校、高梁城南高校との交流事業、高校の地域探求活動や修学旅行での高梁市訪問など、地域を学び郷土愛を育む活動が行われた。
	自己 評価	・農業体験や企業訪問、地域探求事業など、地域や人との関わりを通じながら、郷土愛の育みや社会性などを身に付ける貴重な体験に繋がっている。また、友好都市とのオンライン交流により、生活や文化、学校の活動内容の違いなどを学び、知識や見聞を広げる機会となった。
②	実施 状況	・学校での授業や行事をはじめ校外活動など、様々な場面を通じて、自身を認めることや他者を尊重する道徳教育が実践されている。 ・相談体制の充実を図るためカウンセリングの日数を増やし、いじめや悩みなど学校生活やアンケートを通じながら早期発見に努め、関係機関と連携しながら対応を図った。
	自己 評価	・学校生活や日常生活における児童生徒の活動が、道徳への関心を高めることに繋がっている。 ・延べ49件のカウンセリングを行い、不登校児童生徒や保護者に対するメンタルヘルスや教職員への支援を行い、児童生徒の心身ともに健全な成長に繋がっている。

③	実施 状況	・ 小学 4 年～6 年、中学生を対象とする包括的性教育講座や中学生に障がい理解に関する講座を実施した。
	自己 評価	・ 子どもたち一人ひとりが他人を受け入れる一方で、自分のことも自身でしっかりと守って行くことができるよう、性別の違いや障がいを含むマイノリティなど、身体や心の多様性、互いを尊重し合える共生社会への理解を深め学ぶことができた。

（外部評価会議の意見）

- ・ スクールカウンセラーによる児童生徒や保護者、教職員との面談は、小さい相談でも受け止めて心の健康や学校生活を支える繋がりを維持するため継続するべきである。
- ・ 包括的性教育は多様性の時代のなか、互いに尊重し共生社会への理解を深める事ができるため、とても良い取り組みと評価できる。

3 快適な学習環境の整備を推進します

① コミュニティ・スクール（学校運営協議会。以下、CS という。）では、小中学校の運営方針を承認するほか、子どもたち一人ひとりが、生きる力を備えて行くための学びの環境、小学校から中学校までの9年間のあり方について、検討を行っていく等“地域と共にある学校づくり”を目指します。

② 小学校に開設した通級指導教室に空調設備を設置し、学習環境の改善を図ったほか、小中学生のタブレット端末の更新し、ICT環境の整備を図ります。

①	実施状況	・各学校、PTA、関係機関等15名による小中合同のCSにて先進地の視察や年6回の会議を開催し、学校評価をはじめ、体験活動のあり方について熟議を行った。
	自己評価	・小中学校の活動内容を共有しながら「9年間を通した活動」や学校評価について、保護者や地域、学校が連携、協働し、子どもたち一人ひとりにとって個別最適な学びの環境について議論を深めることができた。
②	実施状況	・小学校の通級指導教室の適正な室温管理を行うとともに、猛暑日の対応として授業中の水分補給、体育授業や部活動の中止等を実施。 ・小学校（2年生以外）のタブレット端末192台、中学校113台の更新を行った。
	自己評価	・教室での熱中症対策が不要となり、授業計画に大きな支障をきたすことがなくなった。 ・タブレット端末の更新によりICTを活用した学習環境の改善が図られた。

（外部評価会議の意見）

- ・コミュニティスクールにおける子どもたちの9年間の学びの環境に係る議論については、今後もしっかり継続していただき、考えをまとめることが必要である。
- ・校内に体育館など空調設備未設置の場所もある中、熱中症対策を継続し、子どもたちの体調管理に努めて頂いた。

4 多様な教育機会の支援を推進します

- ① 幼小中高の連携による乗り入れ授業や授業交流など、学校間の相互理解と相互支援の充実を図ると共に新入学児童生徒の学用品費の負担が困難な家庭に対する就学援助を継続するほか、給食費の全額助成による無償化を行います。
- ② 子どもたちが将来なりたい道へ進む選択肢を広げるため、町外の高校へ通学する生徒に対する通学費の半額助成による支援を行います。
- ③ 道立 奈井江商業高校が令和 8 年度より募集停止となり令和 9 年度に閉校することが決定しましたが、引き続き高校と連携を図り、在校生に対してスキルアップや探求活動等の支援を行います。

①	実施状況	・小中学校の連携では、授業参観や乗り入れ授業、部活動体験などを行い、高校との連携では、中学生に対するプログラミング出前授業を実施し、認定こども園と小学校の連携では、次年度、小学校へ就学する 5 歳児を対象に 1 日入学を実施。 ・小中学校に進学する児童生徒の入学前準備が円滑に進めるため、5 名に学用品費の援助を実施したほか、学用品費などの負担が困難な家庭の児童生徒 47 名に援助を実施。 ・児童生徒の給食費の全額助成による無償化を継続実施。
	自己評価	・幼小中高の連携により、教育活動の相互理解や支援、専門性を深めた授業など、充実した学習内容とそれぞれの課題解消を図る取り組みに繋がっている。 ・給食費の無償化により保護者の負担軽減を図ることができた
②	実施状況	・町外の高校（滝川、美唄、岩見沢、札幌など）へ通う学生の保護者に対し、通学が可能な範囲の交通費（JR 通学定期 6 ヶ月分券の額を基準とした半額）66 件を助成
	自己評価	・高校進学先の選択が広がるとともに子育て世帯の経済的負担軽減と就学の支援を図ることができた。

③	実施 状況	・入学生 8 名の制服やジャージ代をはじめ、簿記や情報処理など各種検定や模試への支援、地域探求授業のコーディネートなど、生徒のスキルアップを支援した。
	自己 評価	・生徒のスキルアップ活動への支援が、生徒の学習意欲向上や一人ひとりの確実な成長、進路実現に繋がっており、少人数教育ならではのきめ細やかな個別指導に貢献することができた。

（外部評価会議の意見）

- ・就学援助や高校通学費、奈井江商業高校への助成などの支援は、保護者の負担軽減につながる良い取組みである。
- ・高校通学費助成では、対象者が制度を知らなかったとはならないよう中学卒業のタイミングで周知するなど方法の工夫が必要。
- ・奈井江商業高校への支援を閉校までしっかりと継続するよう努められたい。

5 子どもの健全な育成を推進します

- ① 子どもたちの感性を豊かにし情操を育むため、芸術鑑賞会を開催し、小学生中学生に生演奏の迫力を体験させます。
- ② 「子どもの権利に関する条例」に基づき、町長と語る会や子ども会議の活動を支援するほか、子ども会議では「自分達でやってみたい」のほか、広くまちづくりについても議論し実践していく活動を通し社会参加を促進します。

①	実施 状況	・ 芸術鑑賞会では、小中全学年のほか奈井江商業高校も招待し札幌国際情報高校の「SIT-Band」によるダンプレを鑑賞。小学生にはミュージカル「オズの魔法使い」の鑑賞も実施。 ・ 奈井江中学校校吹奏楽部が PMF アカデミー生や音の玉手箱との連携を行うと共に SIT-Band との共演を実施した。
	自己 評価	・ 音楽鑑賞会の開催により、生の芸術・文化に触れながら情操教育の推進を図った。 ・ 吹奏楽部の生徒にとって表現力や創造力、活動意識の向上に繋げることで次世代の育成にも努めた。
②	実施 状況	・ 全 11 回に及ぶ子ども会議の活動や小学校 5～6 年生、中学高校全校生徒による「町長と語る会」など、子どもたちの社会参加を支援するとともに、児童生徒の意見や考えについては、まちづくり事業の検討事項として活用した。 ・ CS 版子ども会議では児童会や生徒会メンバーのほか公募による子どもたちを含めた前期後期合わせて 28 名の委員が意見を重ね、産業まつりの出店や芽室町とのオンライン交流など、主体的な活動を行った。
	自己 評価	・ 各学校で開催した「町長と語る会」を通じ、まちの課題や魅力づくりなど、自らの視点で考え発表することで、まちづくりへの関心を高める活動はできたが、町の施策への実現性や反映が難しいケースや町からの回答や対応が遅れたため、まちづくりへの参加意欲が促進したとまでには及ばなかったことから、子どもの意見に対しての迅速な対応と「町長と語る会」のあり方について検討していきたい。

(外部評価会議の意見)

- ・現在の取り組みを評価する一方で、音楽に合わせて躍動的に文字を書く「書道パフォーマンス」のような新しい芸術など、クラシック音楽のみならず、幅広い分野の芸術文化に触れる機会の提供も検討してください。
- ・町長と語る会は、子どもたちが町長に直接、意見や提言を発表し、意見交換を行う体験であり、まちづくりについて学ぶ貴重な機会となっている。今後もどんな方法であれ、子どもたちが自ら考え行動する主体的に関わる取組みを継続するべきである。

6 生涯学習活動を推進します

- ①生涯にわたって学習を続けられるよう、個人やサークル、活動の大小に関わらず、発表の場の創設などを通じて活動を支援していきます。
- ② 子ともたちに絵本を贈呈する事業を継続するとともに、青空としょかんやノーゲームデー、毎月1回図書館で子ども達が騒いでもよいキッズデーを行います。また、小中学校の図書室と図書館が連携し図書環境の改善を図ります。

①	実施 状況	・公民館講座では、3講座（陶芸（4回延28名）、草木染（1回8名）、親子リトミック（5回11組、延95名））を開催 ・第62回 総合文化祭では、展示（11月1日～3日）に小中学校やサークル、個人の書道・写真・陶芸など18団体6個人 538名 864作品が出展、芸能（11月3日）6団体 42名が参加 ・町民ギャラリー展（5月7日～6月8日）では、絵画・絵手紙・手芸などの作品6団体27名 個人5名 184作品が出展
	自己 評価	・総合文化祭や町民ギャラリーの実施により、個人や団体の創作・活動意欲の向上や活動の継続に繋げることができた。 ・公民館講座では、町民の要望を考慮しながら講座開設し、学びのきっかけづくりや交流の場とした役割を果たすことができた。
②	実施 状況	・ブックスタート事業（親子12組）、セカンド（3歳児11名・保護者16名）、サード（6歳児28名）では、乳幼児から各成長期に応じた読書推進活動を実施。 ・ノーゲームデー（63名）や青空図書館（105名）では、朝活事業やこども園での連携により多くの参加者があったが、キッズデー（毎月最終土曜日）の利用者は少なかった。 ・小中学校図書室へ月2、3回程度、図書館司書を派遣し本のデータ整理や整頓などを行った。
	自己 評価	・親子で絵本に触れる機会のほか、各成長期に応じた事業を行い、乳幼児期からの読書活動に繋げることができた。 ・キッズデーでは多くの子どもたちが利用してもらえるよう周知や内容を工夫し継続していきたい。 ・図書室の本のレイアウトやおすすめ本の特別コーナーを接地するなど、環境改善を図り、徐々に図書室へ足を運ぶ子どもが増えつつあり、読書に興味関心を持つきっかけに繋がっている。

(外部評価会議の意見)

- ・公民館講座は、参加者が少なくても縮小せず、取り組みを継続することで公民館機能の1つである多様な生涯学習の提供に繋がっている。今後も、多くの方に利用してもらえよう、気軽に楽しく始められる新しい講座を検討してください。
- ・ブックスタート事業は家庭での読み聞かせ習慣を促進し、読書習慣が促進されるとても良い取り組みと評価できる。
- ・キッズデーの利用は少なかったが、単年度の結果で判断せずに子どもたちが図書館へ気軽に来て、学びと交流の空間となるような環境づくりを継続して取り組むことを望みます。

7 楽しく参加できる生涯スポーツを推進します

- ①各年齢層に合わせた運動教室の開催など、体育施設の指定管理者や関係機関と協力しながら、町民のスポーツ活動の継続を確保します。また、体育館のトレーニングルームや格技場に空調設備を設置し、運動環境の改善を図ります。
- ②一般社団法人ないえ共奏ネットワークと協力しながら、「生涯活躍のまち」の実現に向けた「多世代健康・安心・活躍フィールド」などの事業を協働します。
- ③部活動が少子化により中学生数が減少し、学校単位での継続が困難となってきたのに加え、教員の働き方改革の一貫として、部活動を地域に移行することに対して検討を行います。

①	実施 状況	・体育館及び町民プールの自主事業（指定管理者が実施） ・体育館では、ソフトテニス教室（延 104 日 712 名）、ミニバスケット教室（延 42 日 363 名）、体育教室（延 44 日 214 名）を実施 ・町民プールでは、こども水泳教室（延 48 日 362 名）水中ウォーキング教室（延 16 日 168 名）、大人水泳教室（延 32 日 73 名）、大人水中トレーニング（延 16 日 16 名）、水中記録会（1 日 16 名）を実施
	自己 評価	・指定管理者の自主事業によって、町民の運動意欲向上と運動習慣の定着化に繋がっている。
②	実施 状況	・地域おこし協力隊事業では、コンディショニング教室（延 364 回延 3,695 名）、パーソナルセッション（延 262 回延 262 名）、テニピン体験会（43 回延 370 名）、野球教室（34 名）、バレーボールフェス（70 名）、テニピン大会（12 名）、スポチャレ DAYS（3 回 30 名）、寺コンディショニング（12 名）、東川町テニピン交流会（15 名）を実施
	自己 評価	・地域おこし協力隊 2 名体制にて、コンディショニング事業による幅広い年代での健康づくりと交流活動を大幅に増やし、教室のみならず町内企業にまで拡充したほか、パーソナルトレーニングやテニピンなど実施し、町民の健康増進および余暇活動の増進を図ることができた。

③	実施 状況	・ 7 年度、ソフトテニス（26 名）、女子バレーボール（9 名）、吹奏楽（17 名）のほか、個人競技として、スキー（3 名）、剣道（2 名）が活動。 ・ 部活動の地域移行を考える検討委員会を設置し、学校関係者や保護者、関係団体など 15 名の委員により 5 回に亘り会議を経て教育委員会に答申があり、休日の部活動の見守りや指導など準備が整った種目から段階的に着手するなど、基本的な考え方や段階的に進めていく計画案を策定した。
	自己 評価	・ 休日の見守りや指導、移動手段のサポートなど、クリアすべき課題も多いことから、保護者や地域の方たちの協力を得ながら、対応していく。 ・ 地域によって経験格差が生まれないよう町内関係団体のほか近隣市町村などとの連携による検討を進めていく。

（外部評価会議の意見）

- ・ コンディショニングやテニピンは、町民の健康づくりや交流にとっても良い取り組みだと評価している。新規スポーツ事業の検討も含め、町民の健康増進のために熱心に取り組んでいる地域おこし協力隊の事業が途切れないよう、今の体制を継続してください。
- ・ 部活動の地域移行では、現状を把握したなかで受け皿の体制を整備し、計画的に取り組むよう努めてください。

8 個性豊かな芸術文化を推進します

- ① 一般社団法人ないえ共奏ネットワークと協力しながら、「生涯活躍のまち」の実現に向けた“まち中 音楽活躍システム”などの事業を協働し、様々なコンサート、事業を実施していきます。

①	実施 状況	・文化ホール自主事業では、新社会人激励コンサート（89名）、PMFアンサンブル奈井江公演（128名）、イルカコンサート（218名）、第287回 音の玉手箱（71名）、バレンタインデーコンサート（105名）を実施。 ・地域おこし協力隊事業では、コンチェルトホールのみならず、病院や図書館など、各所でコンサートを開催したほか、楽器指導（40名）、思い出楽器市（50名）など多種多様な音楽事業を実施。
	自己 評価	・文化ホールの自主事業では、コンチェルトホールの優れた音響効果を生かしたクラシックコンサートを開催したほか、著名なアーティストのコンサートにより集客数と交流人口の増加を図ることができた。 ・地域おこし協力隊と連携し、幅広い年代の町民が文化、芸術に触れる機会を提供した。 ・「まちじゅう音楽」の取組みによってコンチェルトホールの魅力発信に繋がり、事業の開催や演奏の練習、録音など一般の有料利用が増加した。

（外部評価会議の意見）

- ・コンチェルトホールは、小規模ホールながら全国屈指の音響の良さにより、PMFなどの会場として継続開催されているほか、イルカコンサートなどの意欲的な企画で、町外からもたくさん来場して頂いたので、今の文化ホールの環境を維持するよう計画的な整備に努められたい。
- ・町内全域で、一日中文化を楽しめるような事業を企画するなど、奈井江町全体で盛り上がるような事業を検討してください。